

助け合って、守る

副校長 長沼 健一



「備えあれば憂いなし」災害に関して、昔から伝わる言葉ですが、特にこの言葉の重みを感じる時代となりました。東京都では、9月1日から各家庭に「東京防災」という冊子を配布しています。この冊子は、首都直下地震等、様々な災害に対する備えが万全になるように、様々な情報が掲載されています。ぜひ各ご家庭でご活用ください。

学校でも災害に対して様々な「備え」をしています。耐震設備や消火器など「施設の備え」、防災用品の整備など「用品の備え」、万が一の時に安全に行動できるようにする「人の備え」などがあります。の中で、子供たちに特に関連するのは、「人の備え」です。毎月、災害時に安全に行動できるように避難訓練を実施していますが、その内容は、画一的なものではなく多様な状況を想定しています。今年度も、休み時間に避難訓練を実施するなど、新しい取り組みをしています。

また、9月18日には、B部門高等部1年生を対象に「一泊二日の防災宿泊訓練」を行いました。この取り組みは、全ての都立高校で実施されており、特別支援学校では昨年度から順次実施しています。詳しい様子は、別項で紹介いたしますので、ご覧ください。

新しい取り組みの中で、大切にされているのは「自助（自分の命は自分で守る）・共助（ともに助け合う）」の精神です。災害時において、高等部を中心に生徒が他の生徒のために活動する場面は十分に想定されます。例えば、今回の宿泊防災訓練の経験を生かし、高等部が非常食の調理を担当することがあります。

「共助」は学校内だけではありません。本校は、あきる野市と隣接する西多摩療育支援センターとも災害協定を結んでいます。災害時には、互いに助け合うことになっています。また、日頃の備えでは秋川消防署からは、多大な支援をいただいています。

いつ起こるかかわからない災害。災害への「備え」に万全はないかと思えます。しかし、地域と連携し、多様な取り組みを展開することで、子供たちを守っていきたくと思っています。

宿泊防災訓練の様子

9月18日と19日の2日間、B高1を対象に1泊2日の宿泊防災訓練が初めて行われました。今回は大きな地震でライフラインが停止したとの想定の下、様々な訓練を実施しました。

秋川消防署と連携した訓練では、起震車や煙ハウス体験と消火器訓練がありました。地震の揺れや火災時の煙を実際に体験することで、自分の身をどう守るかという意識が高まったと思います。次に、班に分かれてカセットコンロでお湯をわかして非常食（カレーとスープ）を準備し、宿泊用の毛布や水、食料を運びました。皆で落ち着いて、お互いに協力しながら取り組むことができました。また、夕食時には灯光器の明かりのみで食事をするという体験もできました。DVDを使っての地震時の注意事項や、非常用持ち出し袋の学習をした後、就寝準備に入りました。入浴はできないので、限られた水を有効に使う、タオルで体を拭く、場所を確保して毛布を敷く等も、皆真剣な表情で取り組んでいました。

2日目は6時に起床し、非常食のクラッカーとシチューで朝食を済ませた後、まとめを行いました。この時点では、既に交通機関が復旧したという想定でしたので、保護者引き取りと一人下校で帰宅となりました。また、訓練中は数回メール配信も行いました。今回の訓練を通して、緊急時に備えて対応する方法を学び、また大変な状況だからこそお互いがより協力し合うこと、それぞれが自分の役割を果たすことの大切さを意識できたのではないかと思います。いろいろとご協力ありがとうございました。 本間



高等部 職場見学・インターンシップ・職場実習の様子から



いよいよ後期がはじまりました。高等部ではA部門、B部門ともに各学年で見学やインターンシップ、現場実習が始まります。

【A部門高等部】

1年生では、半日もしくは1日の見学、体験（インターンシップ）からスタートします。2年生になると、福祉事業所の場合は2日程度、企業の場合には3日程度の現場実習を行います。3年生では、サービス利用や就職を具体的に考えた実習になり、2年生と同様、福祉事業所の場合は2日程度、企業では5日程度の実習を行います。

【B部門高等部】

1年生では後期から2学期と3学期に1か所ずつ、福祉事業所もしくは企業への1日体験（インターンシップ）を行います。このインターンシップは2年生の1学期にも行い、3回の体験をもとに、進路希望を具体的に考えていきます。その後、2年生の2学期と3年生の1学期、2学期、3学期（一部）に現場実習として、5日～10日程度の実習を福祉事業所や企業で行います。これらの実習から進路先の検討、選択をしていきます。

【インターンシップ・現場実習に向けて】

生徒たちは期待と不安を持ちながら体験に臨んでいきます。しっかりと力を発揮し、多くのことを学べるように保護者の方のご協力をお願いいたします。

特に実習期間中は学校生活と大きく生活時間が異なります。体験前や実習期間中に生活リズムや体調をくずさないようにしましょう。また、インターンシップや現場実習では、日誌に保護者の方に前日や帰宅後の様子などをご記入いただく欄があります。受け入れ先の方に本人の様子を知っていただく目的がありますので、必ずご記入くださいますようお願いいたします。

インターンシップ、現場実習から帰ってきたら、一日の様子や感想などをぜひ聞いてみてください。活動や作業をとおして、生徒本人がどう感じたか、何をがんばってきたかなどを話題にしていただければと思います。

高等部全体で取り組む見学、インターンシップや現場実習。生徒のみなさんのがんばりを学校全体で応援していきたいと思っております！

進路指導部 山崎

A 小学部の乗車学習



『大好き 乗車学習』



学校から武蔵引田駅が近いこともあって、切符の買い方や電車の乗り方を体験し、社会経験の幅を広げることを目標に乗車学習を行っています。集団行動を乱さず、電車の中では「静かに」をルールに、マナーよく、車いすから降りて座席に座る体験もしています。子どもの課題に合わせて各グループ「昭島駅」「秋川駅」「拝島駅」「五日市駅」等に到着にし、買い物をしたり、友達と食ったり、飲んだりすることも楽しみの一つになります。地図を見ながら目的地を探したり、店内ガイドを見ながらお店を探したりする活動も、自分がリードをする順番になると張り切っています。学年では高学年の取り組みとして4年生が乗車学習に出かけてきました。

羽村



B 小学部 4年生校内宿泊



【はじめての校内宿泊】

9月17・18日に、一泊二日で校内宿泊を行いました。子どもたちは、事前学習の時から、どきどきわくわくしていたことと思います。

当日は、スケジュールに沿って、生活訓練室へ荷物や布団を運びました。レクリエーションでは、ゲームやダンスで盛り上がりました。その後は、朝食の買い物をし、レストランで夕食を食べました。学校に戻り、お風呂に入ったり、布団を敷いたりする中で、みんなで一緒に泊まるという実感が一層強まっていったことと思います。消灯すると緊張や疲れがどっと出て、いつの間にか皆、眠りについていました。

翌朝は、いつもと違う雰囲気の中で目覚めました。挨拶をし合い、朝食のカレーを作って食べました。「おわりのかい」では、二日間の活動を記録した写真やビデオを見て、自分たちの頑張った経験を分かち合いました。

二日間、子どもたちは本当によく頑張りました。そして、多くのことを学び、また一歩成長することができたことと思います。皆様には、宿泊へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

古城

《お知らせ》

保護者の方で来校時に使用するネームフォルダをなくされた方は、担任までお知らせください。

